

静岡県下市町社会福祉協議会 職員地域福祉研究会による学習会

静岡県下市町社会福祉協議会職員地域福祉研究会
〒420-8670 静岡県静岡市葵区駿府町 1-70

助成事業の概要

本事業の実施目的は、1. 社協のコミュニティワークが社協活動のあらゆる分野とどうつながっているのかを明らかにすること。2. コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの関連を整理していくこと等を通して、新しい社協活動の全体像を掴んでいくことである。

事業の時期と内容は以下の通りである。

【5月】「地域包括ケアと社協ワーカーの役割」と題した学習会（講師：東京都立川市社協南部西ふじみ地域包括支援センター長 山本繁樹氏）と事例報告を行い、今後の地域包括ケアシステムの展望などを学習した。

【6月】「今、あらためて福祉教育の展開方法を考える」と題した学習会（講師：日本福祉大学 准教授 原田正樹氏）とミニ読書会を行い、福祉教育方法の形骸化とそれを乗り越える考え方等を学習した。

【9月】「災害ボランティアセンターと社協の役割を考える」と題した学習会（NPO 法人ローカルコミュニティー 事務局長 高田克彦氏）と実践報告を行った。

【10月】「新しい地域福祉活動の方法（助け合いマップ）を学ぶ」と題した学習会（講師：駒ヶ根市社協 事務局次長 片桐美登氏）を行い、現在社会が抱える高齢者問題と孤立の問題、「助け合

いマップ」づくりの方法と実践事例等を学習した。

【12月】「社協の底力ー誰もが安心して暮らせるために私たちにできることー」と題した学習会（講師：伊賀市社協 事務局長 平井俊圭氏）とミニ読書会を行った。

【2月】「地域福祉の歴史を振り返り、これからの社協を考える」と題した記念講演（講師：元長野県社協 事業局長 小池正志氏）と総会を行い、社協の法令化、法人化などの歴史をたどりながら、社協や地域の現状とこれからの社協の果たすべき役割を学習した。

事業の成果

社協を取り巻く環境は、時代とともに変化し、NPO 等、新たな地域福祉の実践主体の活動が活性化する中で、社協の役割を明確にすることができず、苦しむ社協ワーカーも多い中、本事業では、時代が求める社協活動（地域福祉活動）を追求することを目的として、学習実践をおこなってきた。

6回の実践活動を通じて、様々な角度から、専門的な地域福祉における理論を学び、全国的レベルの先進的な実践事例に触れることを通じて、今日的な地域福祉課題に対するアプローチや取り組み方法について、学ぶことができた。

特に、今回の取り組みテーマとしていた社協実践における個別支援とコミュニティワークの連携

については、地域包括ケア、福祉教育、災害時対応、小地域福祉ネットワーク、住民自治等の切り口から学習を進めることにより、個の課題へのアプローチ技術を学ぶと共に、そのアプローチを通じて、社協がこれまで培ってきたコミュニティワークの実践へと繋げていくことができるか、さまざまな職種に携わる社協職員が増える中、それぞれの立場から個別支援を通じて、地域福祉活動へと、どう広げていく事がべきかということ学びを得ることができた。それは、コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークとの関連を整理したり、今日的な地域福祉実践のアプローチである地域包括ケアについて、あらためて、社協サイドから検証することによって、個別支援とコミュニティワークの実践融合のヒントを得ることができたからである。

参加者からは、「社協本来の役割や機能が整理できた。」「具体的な課題に対応するための社協的アプローチ方法のヒントが得られた。」「自分が今実践している業務における、コミュニティワーク実践の方法、ヒントを得ることができた。」等の感想を得ることができた。

日常、個々の社協で孤軍奮闘している会員が、本事業により、一同に集まる学習の場を持ち、職種やキャリアを超えて社協論や地域福祉実践を学ぶことができたことは、社協にとっても、会員個人にとっても実践の枠を広げることができ、地域福祉実践における力量を高めることができたとともに、静岡県下の社協を実務でネットワーク化していく土台となったと考える。

今後の展開

本助成事業を通じて、社協本来の役割や機能を整理できたと共に、今日的福祉課題に対するアプローチなど、実践の技術やヒントを得ることができた。

得られた知識、技術をもとに、会員が具体的実践活動をおこなうことで、さらなる理論の深化や新たな技術や事例を会として構築していくと共に、静岡県内の社協への普及をおこなうことにより、静岡県下の社協の強化、及び静岡県における地域福祉活動の推進を図っていきたい。